

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成31年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
31-3	交通・物流・交流・防災拠点としての道の駅の性能照査と多目的最適配置に関する研究	長岡技術科学大学 教授 佐野 可寸志	A
<p>&lt;研究の概要&gt;</p> <p>道の駅を交通、物流、地域交流および防災拠点として活用するための機能を論じ、広域ネットワークでの拠点間の近接性等を踏まえて、拠点毎に各機能の有効性を指標化する手法と多目的最適配置計画手法を確立する。</p> <p>&lt;中間評価結果&gt;</p> <p>道の駅の利用状況等の調査のほか、性能照査項目の設定、分析用データベースの作成、広域交通・物流と地域交流・災害時拠点の両観点からの性能照査手法の構築等を進め、研究成果を得ている。今後の研究の見直しにおいても成果が期待できることから、現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p>&lt;参考意見&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>最適配置計画のモデル化の際には、平常時と災害時、近隣需要と広域需要といった条件（枠組み）の違いが「多目的最適化」にどのように反映されるのかを明確にしていきたい。</li> <li>定量的評価指標とその重み付けの推定法について、科学的に根拠のある方法を提案いただきたい。</li> <li>今年度検討対象としなかった交通結節点としての機能などについても、性能照査の項目に加えることを検討いただきたい。</li> <li>道の駅の機能強化という側面に留意しながら研究を進めていただきたい。</li> </ol>			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第39回新道路技術会議において審議したものである。